

令和 4 年 6 月 10 日現在

機関番号：32645

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K09326

研究課題名(和文) 認知症介護者の介護負担感と介護うつに対する介護者教育の効果に関する研究

研究課題名(英文) Effects of caregivers' education on depression symptoms and sense of burden of dementia patient caregivers

研究代表者

櫻井 博文 (Sakurai, Hirofumi)

東京医科大学・医学部・兼任教授

研究者番号：60235223

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：認知症の理解を深め、対応の仕方学び、介護保険サービス案内などの介護者教育を1回90分2か月連続で行った。介護者教室に参加した介護者47名と参加しない介護者36名に対して開始時、3か月後と1年後に、介護者の抑うつ、介護負担感を評価した。介護者教育は受講後3か月後において介護者の抑うつと介護負担感の改善に効果があったが、1年後は開始時に並ぶ抑うつと介護負担感が認められた。また介護者教育を受けていない介護者は3か月後、1年後に抑うつと介護負担感が増加した。以上より、定期的な介護者教育を行うことが望まれる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

認知症患者を介護する家族介護者は経済的負担・肉体的負担・精神的負担を強いられる。そのため認知症患者に対する支援は本人に対する治療に留まらず、本人を介護する家族に対しても行うべきであり、近年では家族介護者を支援する様々な取組が行われ始めている。家族支援の代表的な一つが認知症患者家族を対象とした介護者教室である。認知症患者の家族介護者に対する教育が介護者の心理的負担の軽減に繋がることが様々な研究から示唆されている。本研究では介護者教育が、介護者の介護負担感・介護うつに及ぼす効果を検討し、その効果が長期的に持続するかどうかを検討した。

研究成果の概要(英文)：The caregivers' education program for caregivers of patients with dementia improved their depression symptoms and sense of burden 3 months after the caregivers participated in the program. However, their depression symptoms and sense of burden returned to baseline 1 year after participating in the program. On the other hand, depression symptoms and sense of burden of the caregivers who did not participate in the caregivers' education program were worse than baseline at both 3 months and 1 year. Therefore, providing education to caregivers of patients with dementia may result in beneficial effects for caregivers for a certain period, but to maintain this effect, it is desirable to provide education to caregivers on a regular basis.

研究分野：認知症

キーワード：介護者教育 介護負担感 介護うつ 認知症 BPSD

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

認知症患者を介護する家族介護者は経済的負担・肉体的負担・精神的負担を強いられる。そのため認知症患者に対する支援は本人に対する治療に留まらず、本人を介護する家族に対しても行うべきであり、近年では家族介護者を支援する様々な取組が行われ始めている。家族支援の代表的な一つが認知症患者家族を対象とした介護者教室である。認知症患者の家族介護者に対する教育が介護者の心理的負担の軽減に繋がることが様々な研究から示唆されている。

### 2. 研究の目的

介護者教育が、介護者の介護負担感・介護うつに及ぼす効果、認知症患者の BPSD に及ぼす効果を検討し、その効果が長期的に持続するかどうかを検討した。

### 3. 研究の方法

介護者教室において、認知症の理解を深め、BPSD への対応の仕方を学び、介護保険サービス案内などの介護者教育を 1 回 90 分 2 か月連続で行った。介護者教室に参加した介護者 47 名(E 群)と参加しない介護者(C 群)36 名に対し、開始時、3 ヶ月後と 1 年後に介護状況調査、CES-D による抑うつ評価、Zarit 介護負担尺度日本語版(J-ZBI)を行った。認知症患者に対しては、MMSE、Neuropsychiatric Inventory (NPI) による BPSD 評価を行った。

### 4. 研究成果 (Figure1)

(1) E 群の受講前 (47 名) の CES-D (14.5)、J-ZBI (31.7)、NPI (6.7) は、受講 3 か月後 (36 名) には CES-D (12.1)、J-ZBI (27.7) と有意に改善し、認知症患者の NPI (5.5) も改善傾向が認められた。しかし受講 1 年後 (20 名) では CES-D (13.1)、J-ZBI (28.5)、NPI (6.1) 共に受講前との有意差が認められなかった。

(2) 一方 C 群における開始時 (36 名) の CES-D (12.4)、J-ZBI (24.9) は、3 か月後 (22 名) に CES-D (16.0)、J-ZBI (35.6) と有意に悪化し、1 年後 (11 名) においても CES-D (19.6)、J-ZBI (36.1) は開始時からの有意な悪化が認められた。NPI (5.9) は有意な変化は認められなかった。

(3) 介護者教育は受講後 3 ヶ月後において介護者の抑うつと介護負担感の改善に効果があったが、1 年後は開始時に並ぶ抑うつ感と介護負担が認められた。また介護者教育を受けていない介護者は 3 か月後、1 年後に抑うつ感と介護負担が増加した。以上の結果より、定期的な介護者教育を行うことが望まれる。

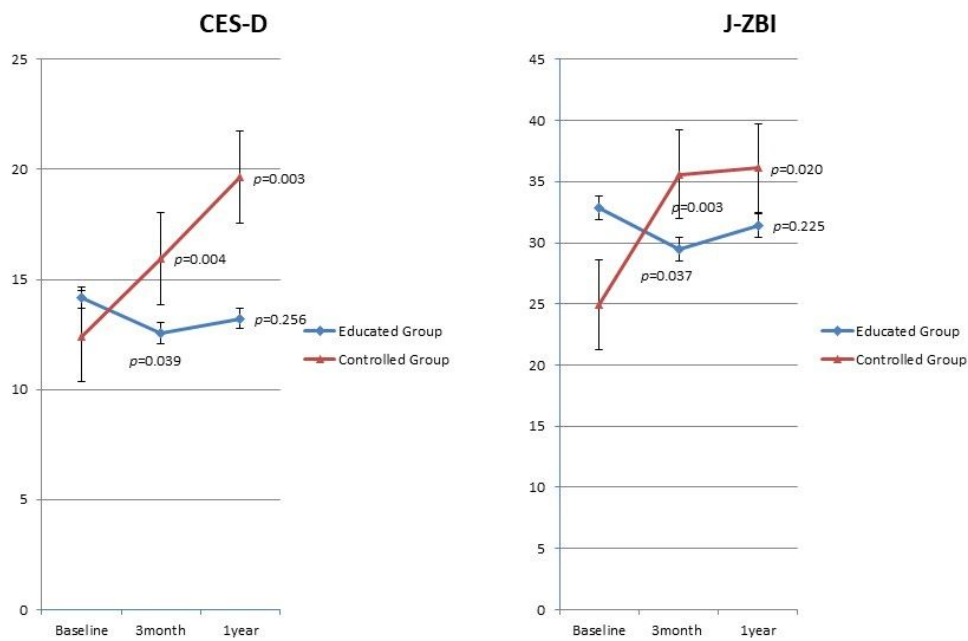


Figure 1. 介護者教育による介護うつと介護負担感の改善効果

介護者教育は受講後3ヵ月後において介護者の抑うつと介護負担感の改善に効果(青線)があったが、1年後は開始時に並ぶ抑うつ感と介護負担が認められた。一方、介護者教育を受けていない介護者は3ヵ月後、1年後に抑うつ感と介護負担が増加(赤線)した。

<引用文献>

Sakurai H, Hanyu H, Terayama H: Factors associated with burden of caregivers of patients with dementia. Geriatr Gerontol Int 15: 384-385, 2015.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Hideyuki Terayama, Hirofumi Sakurai, Nayuta Namioka, Rieko Jaime, Koko Otakeguchi, Raita Fukasawa, Tomohiko Sato, Kentaro Hirao, Hidekazu Kanetaka, Soichiro Shimizu, Takahiko Umahara, Haruo Hanyu	4. 巻 18
2. 論文標題 Caregivers' education decreases depression symptoms and burden in caregivers of patients with dementia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 327-333
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/psyg.12337	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 2件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 櫻井 博文
2. 発表標題 家族介護者教室の効果～介護うつと介護負担感を改善する～
3. 学会等名 第9回日本認知症予防学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 櫻井博文
2. 発表標題 認知症家族に対する介護者教育の効果はいつまで持続するか
3. 学会等名 第37回日本認知症学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 ハイメ理恵子、櫻井博文
2. 発表標題 認知症患者の介護者教育は、介護うつと介護負担感を改善する－1年後の効果－
3. 学会等名 第60回日本老年医学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hirofumi Sakurai
2. 発表標題 Caregiver's education decreases depressive symptoms and burden in caregivers of patients with dementia
3. 学会等名 Alzheimer's Association International Conference 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hirofumi Sakurai
2. 発表標題 CAREGIVERS' EDUCATION DECREASES DEPRESSIVE SYMPTOMS AND BURDEN IN CAREGIVERS OF PATIENTS WITH DEMENTIA
3. 学会等名 32nd International Conference of Alzheimer's Disease International (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 櫻井博文
2. 発表標題 認知症介護者における介護者教室の効果
3. 学会等名 第59回日本老年医学会学術集会(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 ハイメ理恵子、櫻井博文
2. 発表標題 認知症患者の介護者教育は、介護うつと介護負担感を改善する
3. 学会等名 第59回日本老年医学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 ハイメ理恵子、櫻井博文
2. 発表標題 認知症の介護者教育は、介護うつと介護負担感を改善する
3. 学会等名 第36回日本認知症学会学術集会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	羽生 春夫 (Hanyu Haruo) (10228520)	東京医科大学・医学部・特任教授  (32645)	
研究分担者	清水 聡一郎 (Shimizu Soichiro) (10385031)	東京医科大学・医学部・主任教授  (32645)	
研究分担者	平尾 健太郎 (Hirao Kentaro) (40516639)	東京医科大学・医学部・講師  (32645)	
研究分担者	馬原 孝彦 (Umahara Takahiko) (70266477)	東京医科大学・医学部・客員教授  (32645)	
研究分担者	金高 秀和 (Kanetaka Hidekazu) (90385021)	東京医科大学・医学部・准教授  (32645)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------